

一人ひとりの命を大切にする
人権尊重の理念に基づいた
利用者支援を行い
誰もが豊かに暮らせる
地域社会をつくります

輝いて明日へ

2021. 7. 16

理事長挨拶

社会福祉法人 ボワ・すみれ福祉会
理事長 田部井 眞

6月の理事会にて理事長の選任をいただきました。任期は2年間、2023年6月定時評議員会までとなります。2017年6月に初めて理事長に選任され3期目になります。今年の9月で63歳になります。

今回の改選では、永年役員等に参加していただき、法人経営を支えてくださった方の退任もありました。本当ありがとうございました。今後ご支援よろしく願います。

これからの2年間では、『命を守る取り組み』を一つの柱にし、特に感染防止対策、災害対応強化をできる限り準備します。感染防止対策では新型コロナウイルスをはじめとする各種感染症対策の徹底を行い、ご利用者が安心安全に施設を利用するための対策をします。災害対応強化では、せっかく地震では命を落とさずにすんだのに、その後のケアが不十分で体調を崩してしまうことなどがないように、何を準備しておくことが必要か検討し実行していきます。そのために、特に災害後の対応に配慮が必要な医療的ケアを必要とする方にアンケート調査を実施して準備の参考にしていきます。また、どんなに準備をしても、災害が起きると状況に応じてその場で判断をしなければならないことがたくさん起きることはわかっています。そのことへの準備は、とにかくできる限りのことを想定しての訓練を行うことだと思います。そうすれば、想定して訓練したことは、1度は考えたこととして判断していくことができると思います。このような、『命を守る取り組み』を一つの柱とした計画をおこなっていきます。

上記の内容も含めての経営計画は、3年から5年の期間を想定して策定します。3歳から高齢者のご利用者にサービスを提供しているため年代に応じたニーズがあり、多様な対応を求められています。また、地域社会に対する役割の強化も求められています。現在行っているサービス以外にも地域で必要としているサービスの提供が義務付けられています。

今後のキーワードは、「高い専門性とワクワクしたことで日々を満ちます」です。常に頭に置き、理念の実現のために進んでいきたいと思っています。ご支援ご協力をお願いいたします。

法人のロゴマーク
作りしました

ボワは、フランス語で森を意味します。
そしてすみれの花を合わせてデザインしています。



BOWA SUMIRE



平成30年からボワ・すみれ福祉会人事評価育成制度プロジェクトがスタートして、いよいよ今年度から導入されました。人事制度の目的は職員が職場で能力を発揮しやすい環境をつくり、適材適所で一人ひとりが働けるようにすることです。

まずは、職員がその能力を十分に発揮できる環境や組織が必要です。また、仕事に対するモチベーションを高める仕組みも必要になります。能力のある職員が適材適所で配置され、事業目的を十分に理解したうえで役割や責任を果たし、高い意欲で仕事に取り組むことができる制度の中で、一人ひとりが納得感を持って仕事にのぞめることが必要になります。

制度の一環として研修制度も含まれており、法人統一のプログラムとして『eラーニング』を導入しました。eラーニング導入の目的としては「①eラーニングを導入することにより、職員に対し平等に基礎研修の機会を設け、職員の社会人としてのビジネス力、福祉専門職員としての基礎能力向上を目指す。②法人のキャリアパスの中に必須科目を設けることにより、研修（学習）の記録を明確にし、評価制度におけるツールの一つとして活用する。③管理者は、部下の学習の進捗状況や、日々の業務における学習の成果を通じて育成していく。」という3点を挙げています。また、新卒入社前の内定者研修としても活用していく予定です。まだ始まったばかりなので、これからいろいろな課題や活用方法が見つかると思います。実施してみて職員からいただいた意見も取り入れながら有効活用しつつ、法人職員の質の向上及び、サービスの質の向上につなげていきたいと考えています。

(大高 弘之)

人材育成における研修の考え方

- ①まず重要なこと(基礎的なことから専門的な事まで)を研修で理解して欲しい。
- ②受講者が研修で学んだことを実践して、望ましい行動をするようになって欲しい。
- ③受講者の行動が変化することによって、法人理念の実現やスキルのアップ、サービスの質の向上に繋がって欲しいということです。

特に②の『望ましい行動をするようになってほしい』=『行動の変容』について求めるものであります。



花の家eラーニング活用開始

花の家では、大きく5つの柱に分かれた研修計画が立てられており、今年度よりeラーニングを活用した研修が新たに盛り込まれました。eラーニングを導入することで、福祉のプロとしての基礎支援力向上と支援の統一化につながることを目指しています。実際に研修に取り組む職員にとって、未経験の物事を新たに始めなければならないという抵抗感や負担感が少しでも緩和され、前向きな気持ちで関心を持って臨めるように、研修委員会の中で様々な検討を重ねています。

4月に全正規職員が新型コロナウイルス感染症予防対策を視聴した際は、個々の気づきと不十分だった感染対策についての意見交換などを行い、今後どのように行動すべきなのかを共有することが出来ました。

同じ講座を繰り返し視聴できる点はeラーニングのメリットの一つです。「一度の視聴で終わり」ではなく、得た学びを研修後の日常業務内で実践できるように具体的な行動計画を立て、実行し、振り返りをしながら3か月後や半年、または一年後に同じ内容の講座を再視聴することで、さらなる理解を深めたり新たな気づきを得たりする研修の流れを定着化することが今後の課題です。

(小菅 理恵)

研修風景



「事故発生状況と対策」

昨年度の花の家での事故発生件数は、調理や送迎での事故を含むと86件に上り、その中でも転倒や外傷の事故が多く見られました。

月別で見えていくと、緊急事態宣言で施設閉鎖があった4、5月は少なかったものの、年度の半ばにかけて事故が増えてきており、ご利用者や職員が慣れてきたころに多くの事故が発生していました。同じような事故が続いたこと、事故の件数が増えてきたこと、さらには骨折等を含む通院が必要な事故が増えてきたことを踏まえ、定期的に行っている安全衛生委員会で事故防止策を議題に挙げました。ヒヤリハット(※1)の数を増やすこと、ヒヤリハットを全職員で共有することを目的とし、月別でヒヤリハットを集計、その内容や種別を毎月行っているグループ会議で全職員に資料として配布するようにしました。

また、事故とヒヤリハットの境界線を明確にし、どのグループでも事故とヒヤリハットを同じように抽出できるようにしました。その他、グループ会議内で毎回「事故防止のための研修」の時間を設け、KYT(危険予知トレーニング)研修やご利用者によって事故になりそうなことを話し合うなど、全職員が事故を防止する意識を強く持てるようにしました。

上記の事故防止策を行ったことで、昨年度後半から今年度にかけてはヒヤリハットが増え、事故の件数は昨年度前半に比べて減少させることができました。(齋藤雅信)

(※1) 重大な災害や事故には至らないものの、直結してもおかしくない一歩手前の出来事を「発見」することで名前のおとり突発的なミスにヒヤリとしたりハッとすることを指します。)

研修風景



「汗と消毒液が飛び交うボッチャ大会」

今年度から新しく花の家で行われることとなったイベント「ボッチャ大会」ですが、手に汗とアルコール消毒液が握られる、大盛り上がるの大会になりました。ボッチャボールと共に笑い転げ、後半になるにつれて職員と一緒に狙いを定める姿は真剣そのもので、コロナ禍であることを忘れさせてくれるような、ご利用者の夢中な表情を何度も見ることが出来ました。

感染症予防の為に全開になったのは窓だけではなく、このご時世の中でどうすればご利用者が安全に楽しめるかを考える職員の熱い心と、それに応えてくれるご利用者の笑顔だと思わせてくれる、夏のイベントでした。(上吉原孝太)

((´∀`))



消毒も忘れずに



看護師さんに熱中症について聞いてみました

花の家 看護師：葛西 由美子

6月に入り、暑さを感じる日が増えてきました。今年の夏も、平年並みで厳しい暑さといわれていますが、毎年恒例のように聴くこの言葉、いったいいつからだろうと思い調べてみました。するとその中に、全国で熱中症による救急搬送者数が大きく増加したのは約10年前、2010年以降というデータがありました。2016年から始まったSDGsの動きにも熱中症と関連する気候変動への対策が含まれています。

昨年夏に関東甲信地方で試行された『熱中症警戒アラート』が今年から全国で運用開始となりました。熱中症についての注意喚起、予防方法、予防グッズ、対処法はあちらこちらで目や耳にします。特に昨年はコロナ禍における新しい生活様式での熱中症予防を心がけなくてはならず、これはもはやストレス禍とも言えます。

しかし、このストレスを蓄積していくと、熱中症リスクも高くなります。心の健康はとても大切です。自分を大切にしていますか？自分に話しかけていますか？自分を頑張らせすぎていませんか？ご褒美をあげていますか？たくさん笑って元気な体を作り熱中症を予防しましょう。



コロナ過で迎えた新年度。クッカ広場でもマスク着用、毎日の検温、消毒と感染対策に気をつける日々が続いております。「さくら祭り」や「しょうぶ祭り」にも参加できませんでした。

そんな中でも、クッカ広場としてリサイクル品・草花の店舗販売は元気に行っています！もちろん、お客様との接触はなるべく避けつつという形の営業となってしまいましたが、クッカ広場での買い物を楽しんでいただけるようみんなで工夫しながら店舗のつくりこみを行っています。ご利用者がお客様に対して手指消毒、マスクの着用や、ソーシャルディスタンスをお願いする呼びかけも板に付いてきました。

残念ながらクッカカフェの営業は休止中ですが、クッカ特製の自家焙煎珈琲豆や焼き芋の販売は継続しております。その他にも、CDの仕分け作業、草むしりや、パーキングメンテなどできることを地道に行っています。5月末には毎年恒例の小山田桜台の花壇植付けにも行ってきました。みんなで頑張って花苗を植え付けて、ステキな花壇に仕上がりましたので、お近くにお寄りの際はぜひご覧ください！

(藤見 俊輔)

店内の様子



元気に営業中♪



相談支援 かけはし

「移行期医療への支援について」

かけはしでは医療（機関）に纏わる相談も多く寄せられるのですが、最近特に多いのが小児科から成人期の診療科への移行（「移行期医療」）に関するご相談です。

内容は、生まれて以来全身状態等を診てくれていた主治医（多くは小児神経科の先生）から、一般的な内科等への移行を示唆され、今後の治療に不安を感じられると共に、移行先の医療機関が見つからず悩んでいるというものです。

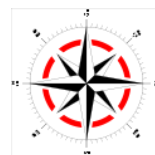
近年、どこの病院にも地域連携室という部署があり、他院への移行等に関する窓口になっています。中には移行先を丁寧に紹介してくれるような場合もありますが、家族自身が移行先を見つけるように言われることもあるそうです。

自分の不勉強を晒すようですが、「移行期医療」について調べてみますと、2010年頃にそのような方向性が示され、準備が進められてきたようです。ここに来て相談が増えたのは、準備期間が終わり、移行の動きが現実化されたということなのかもしれません。

かけはしは医療機関ではないので、医療に係る情報を十分持ち合わせてはいないのですが、細い糸を手繰り寄せるように情報を集めつつ、専門機関に教えを請う中で少しずつ知識と情報を集積しています。まだ十分お応えできていない現状ではありますが、医療と福祉の間にあるような事業所の特徴を活かしつつ、ご利用者、ご家族の不安な思いにお応えできるよう努めてまいりたいと思います。

かけはしでは現在、計画相談（サービス等利用計画作成等）に関する新規のご契約はお受けしていませんが、基本相談（困り事や悩み事、各種相談等）には対応していますので、何かお困り事等ありましたらご連絡ください。

(畠山 史郎)





生産活動について

花の郷では、ご利用者の仕事を生産活動といいます。生産活動の主な内容はクッキー事業、草木染事業、園芸事業、動物用クッキー事業の4つです。

クッキー事業では、施設の敷地内にある工房でクッキーを作っています。機械を使って生地を作る方もいれば、ボールに入れた生地をヘラでこねるなどの手作業で生地を作る方もいます。草木染事業では、クッキーの贈答用製品に使用するパッキンや押し花を作る作業などがあります。園芸事業では、クッキーの材料となる野菜（さつまいも、落花生、かぼちゃ）を作っています。今年は材料となる野菜以外にも、じゃがいもや玉ねぎを育て、たくさん収穫できました。動物用クッキーでは、犬用のクッキーを作っています。小麦粉、油、野菜のみを使ったヘルシーなクッキーです。現在は活動を休止していますが、近々再開予定です。

昨年度は、コロナウイルスの緊急事態宣言により施設閉鎖し、クッキー工房も休止をしていました。クッキー工房が再開しても感染予防から出張販売は中止になるなど先の見えない不安がありましたが、コロナ渦でもクッキーの納品を許可してくださるお店、注文してくださるお客様に救われ、事業を継続することができました。

今年のお中元ではたくさんのご注文をいただき、クッキー作りをはじめ、クッキーのシールを貼る作業、贈答用の箱折り、パッキンの作業など、ご利用者、職員が一同となって頑張りました。

(谷口 裕子)



クッキーの注文賜ります

現在も出張販売は控えている状態ですが、施設での販売、他のお店への納品等は実施しています。店頭で購入できるのはバター系やハーブの詰め合わせなどの単品クッキーです。贈答用製品としてリボンでラッピングした商品や箱にクッキーを詰め合わせた商品があります。また、クッキーの袋に貼っている表紙シールを変更することも可能ですので、お祝い用（卒業、結婚式のプチギフト、記念日）などご用途に合わせた商品にも対応させていただきます。

注文は、電話、FAX、メールで承ります。支払方法は、施設での支払い又は、振り込みになります。お気軽にお問合せください。



社会福祉法人ボワ・すみれ福祉会花の郷

(営業日：平日 9:00～17:15)

TEL：042-737-3248

FAX：042-737-3208

Mail：hananosato@kcd.biglobe.ne.jp





令和3年度が始まり、3ヶ月が過ぎました。思えば、昨年度は世界中が新型コロナウイルスに振り回され、多くの常識が覆されてきた1年でした。「過去の常識に戻る」というのではなくて、ニューノーマル（新しい常識）を意識して進んでいかなければならないフェーズだと感じており、改めて「安心安全、豊かな暮らし」を強く意識し運営に心掛けることを年度初めに決意しました。

更に防災・減災対策、工賃向上、高齢化等の課題を鑑み、「ボワ・アルモニーの専門性は何？」という視点で考えてみたところ、作業における品質管理、食育を伴うオリジナルメニューの昼食提供、ご利用者の強味を引き出す支援技術が、私共、ボワ・アルモニーの専門分野ではないかと感じ、この三点を更に深く追求出来るよう取り組んでいます。

品質管理について

供給会社様からダイレクトメールの発送業務を請け負っており、クオリティーを最重要視して複数作業案件を、納期に合わせて、スケジュール管理をして取り組んでいます。職員間でのコミュニケーションはもちろん、職員一人ひとりが、責任者であることを自覚して作業に取り組むことでミス防止に努めています。「福祉」だからという妥協は一切排除し、信頼、信用を勝ち取れるようOJTの徹底と共に、生産品質会議では、改善議題を全員で考え、答えを出すように取り組んでいます。



昼食提供について

6月に行った食育週間では、ご利用者の皆様より各国の料理をリクエスト形式で選択して頂き、韓国やベトナム料理等、上位5ヵ国の料理をご提供して普段と違った食事を堪能していただきました。また、ご利用者の誕生月にリクエストメニューの提供や季節イベントで行事、防災かまどで調理した防災食の提供などバラエティーに富んだ食育に挑戦しております。



その他の取り組み



新型コロナウイルスの影響で外出にも制限がかかる中、旅行会社の協力もいただきながらアルモニーの敷地内でいちご狩りを行うなど、形を変えたレクリエーションなどにも力を入れています。その他にも、歯のブラッシング指導や毎月実施している体重測定・血圧測定等で体調の変化等にも気を配り、健康面のサポートをしています。ご家庭における生活等の情報を頂戴しながら、個々のご利用者の強味を生かした作業への挑戦やレクリエーション等の余暇にも力を注ぎ、会議等を活用し職員全員で考え、PDCAを繰り返し取り組んでまいります。

(津田 雄大)



児童支援部

ボワ・コンサール

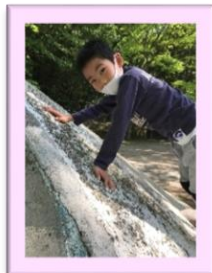
ボワ・コンサールではお天気の良い日は公園へ行き、元気に体を動かしています。

児童の様子を見て、どのような遊びが好きなかを把握し、児童によって出かける公園を選んでいきます。また、「この遊具だったらできるかも・・・」と児童自身も考える遊具がある公園も選んでいます。「やってみよう！」と思い、チャレンジしてみても、「できた」経験を大切にしています。

遊具遊びの他にも、散歩をして景色を見たり、虫や動物を発見したりと児童に合わせた遊びをしています。

公園に行くことが大好きな児童が多く、公園でたくさん遊んでコンサールに戻る際に「楽しかった！」と満足した表情が見られます。遊びの中で楽しく体を動かしたり、チャレンジできるように支援していきたいと思っています。

(渡邊 千春)



ボワ・フルール

ボワ・フルールでは体の成長が著しい小学校高学年から中学生の児童を対象としているため、好きなことに集中して取り組む時間も大切にしつつ、体を動かして楽しむ活動を多く取り入れています。

楽しみながら体を動かすのには、公園遊びがとても有効です。ブランコ、滑り台、バネ遊具など、公園には楽しみながら体を動かせる遊具がたくさんあります。

また、広い空間に出て思いっきり走り回ることでも気持ちもリフレッシュできます。

室内では、体幹を遊びながら鍛え、姿勢保持にも繋がるフットネスシーソーや、揺れの大きさを調整することでリラクゼーション感やバランス感覚、筋力を鍛えられるエアポリンなどの大型遊具を積極的に使って、遊びながら体を鍛えていきます。これから梅雨の時期は室内で過ごすことが多くなりますが、これらの遊具を使うことで室内でも思いっきり体を動かして、憂鬱な気分を吹き飛ばしましょう!!

(上田 哲明)



ボワ・エール

ボワ・エールでは、その日の児童のニーズに合わせてエアポリン（空気を入れて膨らませるトランポリン）を使いダイナミックに体を動かす活動も行っております。

児童の中には体を思いっきり動かしたい人もいれば、ゆったりと静かに過ごしたい人もいるため、少し工夫が必要です。

活動が始まると元気な児童は「大きな揺れ」を求めてダイナミックに動きまわります。職員もタイミングを合わせてエアポリンを揺らすと反動で高くジャンプすることが出来ます。その反発力を活かしながらジャンプを繰り返します。額に汗をいっぱいかいて息を切らしながら楽しんでいきます。一方、ゆっくり過ごしたい児童には、「小さな揺れ」にして、ゆったりとした時間も大切にしています。活動後は一緒に後片付けも行い、体も気持ちもほぐれて良い表情を見せてくれます。

(宇野 敬)



グループホームあかね 金曜日の様子

通所施設での1週間が終わった金曜日の夕方、ご利用者の皆様は少し疲れた顔と、充実した日々を過ごしたという満足そうな顔の、ふたつの顔をされながらあかねに帰ってこられます。

生活の流れは他の日と変わりませんが、金曜日の夜や土曜日の朝は、どこことなくゆっくりとした空気の流れを感じます。

食後、ショートステイをご利用の方も一緒に、みんなでくつろいでいる時は、のんびりした中にも賑やかさがあります。時折、先ほどのまでの疲れた様子はどこへやら、というように大きな笑い声があかねいっぱいに広がります。

今後も、ご利用者が安全で安心、そして居心地のいい空間であり続けるよう、環境作りに努めてまいります。(清水雅也)

土曜日の朝食風景



帰宅の準備ができたらのんびり過ごします。

ボワ・すみれ福祉社会後援会

後援会 令和3年度始動！

日頃、ボワ・すみれ福祉社会後援会にご支援ご協力を賜りまして、ありがとうございます。感謝申し上げます。

令和2年度総会報告

令和2年度定期総会も、新型コロナウイルス感染予防の為、書面にて会員の皆様に議事をお諮りさせていただきました。

集計の結果、議事一覧の提出281名(全会員数376名)、承認210名、会長一任71名により、過半数の承認を得ることができました。

櫻井会長をはじめ役員一同、力を合わせて、後援会をより有意義に活動して参りたいと思いますので、皆様変わらずのご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

令和2年度寄付金交付事業の報告

既にご報告したとおり、昨年度の寄付金交付事業は、各事業所ではなく、新型コロナウイルス対策費として、昨年8月に法人に100万円寄付させていただきました。

法人より感謝いただき、感染予防の為に空気清浄機をリースし、各事業所に設置する等に活用していただいたという事です。

まだ油断ならないコロナ禍です。今後も、皆様からのご支援をこの様な形で、ご利用者につなげていけたらと思います。



会員を募集しております

編集後記

梅雨空が続き、記録的豪雨による被害で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今年度、広報担当となり2回目の発行となりました。ボワ・すみれ福祉社会を皆様に知っていただけるよう1年間頑張りますのでよろしくお願い致します。

(松浦 綾子)

発行 社会福祉法人ボワ・すみれ福祉社会 理事長 田部井 眞



BOWA SUMIRE

東京都町田市下小山田町 3267-2

TEL : 042-797-6004(代) / FAX : 042-797-4824

E-mail : hananoie@mvb.biglobe.ne.jp

<https://bowasumire.jp/>

